

## 岡山大学附属図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY  
LIBRARY BULLETIN

NO. 28

1999  
FEBRUARY

### 岡山大学附属図書館—この二カ年

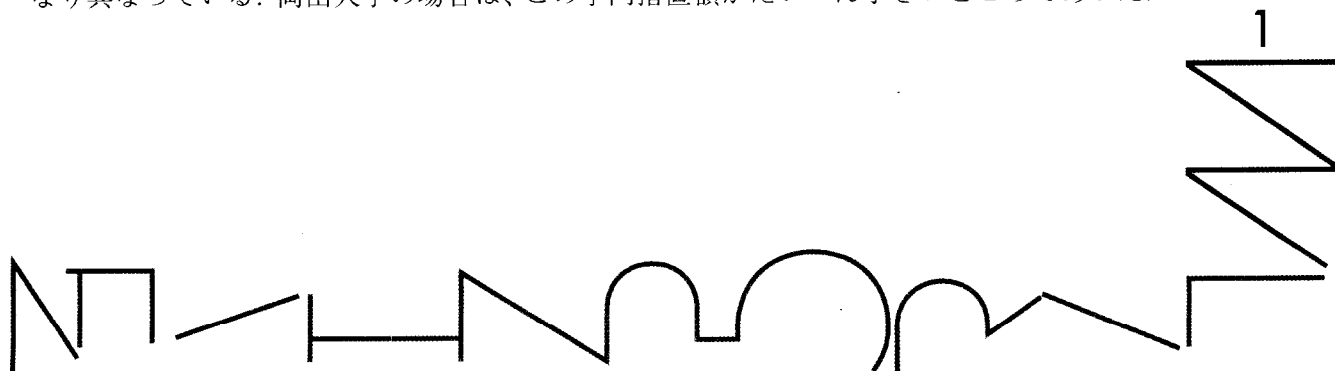
神 立 春 樹

1997年4月に就任した図書館長の任期の2カ年は慌しく過ぎ行こうとしている。ここに、この1997年度・1998年度の図書館活動を顧みて、次期へ引き継ぐ問題を整理したい。

1997年4月7日、竣工なった新館は開館した。既設本館の改装も同時に終了した。中央館は、快適な閲覧環境となり、平日は午後10時まで、土曜・日曜も開館ということがあいまって利用者は大幅に増加した。1997年度の入館者は40万人に達したが、これは1995年度の約1.8倍である（96年度は工事のための休館があり比較には不適切）。

このように利用者が増大した岡山大学附属図書館にとっていっそう重要な課題となったのは、図書資料を充実し、閲覧に供することである。これが第一の課題である。

国立大学附属図書館の場合、文部省から図書館に配分される図書資料購入費はきわめて小さい（岡山大学の場合約2,000万円）。大学全体の図書購入額は大きくなるが（岡山大学の場合は前記の文部省の配分額を含め約4億円）、その大方は教官に配分されるいわゆる研究費での購入である。図書館が主体となって全学的な見地から図書資料を整備しようとすると、教官の研究費からの学内措置によらざるを得ない。各大学はこの学内措置をそれなりに行なっているが、その額などは、各大学の歴史、図書館の位置づけなどによってかなり異なっている。岡山大学の場合は、この学内措置額がたいへん小さいところであった。



私が館長となった早々の1997年5月に、それを1,265万円から3,000万円に増額していただいた。これは、1995年度当初に策定された図書資料整備第2次5カ年計画（年851万5千円）の96年度当初の修正（年1,265万円）を再度修正したものである。それは岡部喬前館長によって、新しい中央館に相応しい学生用図書の充実を目指して提起され、検討されてきたものである。増額分のすべてが学生用図書ということではないが、この措置額の増額による購入図書はもちろんのこと、新館開館を契機とする教官研究費購入図書の開架書架への配架によって、身近に接する開架書架は充実した。

再々度の修正を行なった1995年度策定の5カ年計画は、3カ年計画に変更して実施してきた。これは1999年度をもって終了するので、その後の新計画の策定が課題である。学生用図書の問題をある程度改善した現段階では、ひきつづく問題の解決を目指すものとなる。それとしては津島地区の自然系外国雑誌の継続的購入が切迫した問題であり、人文社会系のまとまった図書の整備も大きな問題としてある。独自の工夫のもとに実施している鹿田地区、倉敷地区の図書館の問題改善をも展望する整備計画の策定が課題となった。

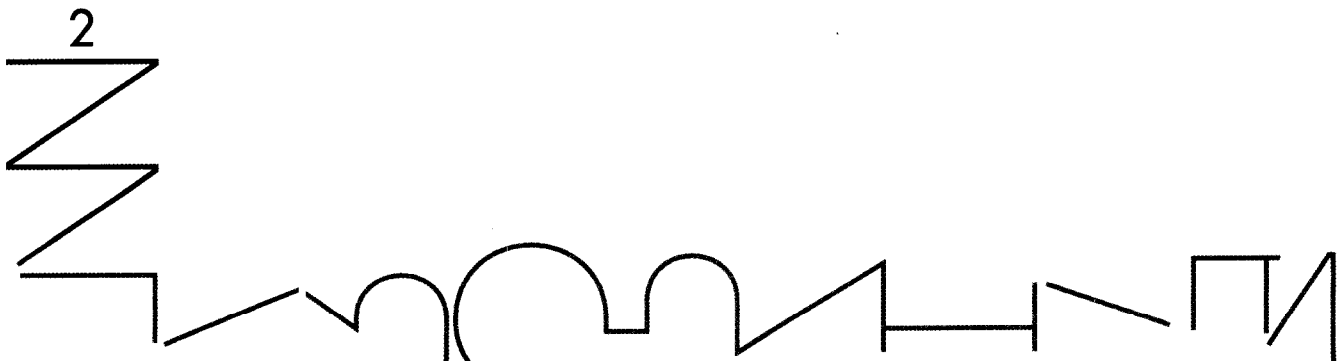
1998年度に入ってから早々に新資料整備計画のための小委員会を図書館運営委員会のもとに設置し、検討を加えてきた。学内措置額の大幅な増加となる計画である。学内措置の財源は教官当り・学生当り積算校費、すなわち教育費を含めたいわゆる研究費である。研究費が少なくなることに連動する整備計画であるが、その意義を御理解いただき、実現することが当面する最大の課題となっている。

第二は、電子図書館機能の強化である。新館開館にはニューメディアコーナーが設置され、各所にコンピュータの端末が設置されるなどして図書館利用者の利用は大きく進展した。そして、1998年1月には新システムが稼動し、ネットワーク対応による機能は一段と向上した。ハード面でもソフト面でも、いつでも、どこからでもということには程遠いが前進しつつある。

岡山大学附属図書館が所蔵している貴重史料の電子情報としての提供は重要な課題である。所蔵する池田家文庫のうち文書・記録類のマイクロフィルム化につづき、絵図類をデータベース化し、インターネット公開を行なっている。この池田家文庫絵図類のデータベース化・インターネット公開などの情報発信もまた一つの重要課題であるが、研究成果・貴重資料の発信を行なうことを目的とする文部省の電子図書館化構想に対応すべく、1998年度当初より運営委員会の管轄のもとに電子図書館構想検討委員会を設置し、ここでその構想を検討してきた。概算要求を行い、その実現を追求する。

第三は、図書館利用教育である。電子図書館機能の増大により、図書館利用は従来に増して複雑になってきている。利用者自身に図書館利用法を身につけてもらうことは、従来から年度初めの時期を中心にしてオリエンテーションを開催してきた。本年度はこれに加えて一般教育科目の一つとして、「学術情報の検索と活用—図書館を利用する—」という、全学一年次生を主対象とする授業科目が開講された。図書館長を代表担当者として幾人かの教員とともに図書館の専門的職員の協力によって実施する授業である。参加する教員は手探りであるが、図書館職員の協力のもとに、この新しい試みは好評のうちに終了した。新年度もまた新しい館長のもとで継続し、より充実したものとして実施されるであろう。

この図書館利用教育は図書館の専門的職員の協力があつてこそ成り立つものであるが、第四は、この図書館活動を担う図書館職員の問題である。具体的には学内措置の問題である。附属図書館の定員配置の在り方は、その大学の図書館の位置づけ、さらには研究教育



の在り方に関わる考え方を反映するものである。岡山大学の場合は図書館職員は少なく、職員配置は適切とはいえない状況にある。約半数が定員外という条件のもとで、全員で協力しあいながら図書館活動を担っている。

このような実状にあって、この1998年度の10月からボランティアの導入を行なった。最小で3時間・週1回の単位での図書館への活動と呼び掛けたところ23人の応募があった。それぞれの希望にもとづいて受け持ちを定めて、仕事を担当している。書架の乱雑さがその都度整理されるなど、図書館の整備、機能の充実に大きな力となっている。ここにボランティアの皆様には感謝申しあげたい。

ボランティアの活動は、まずは手薄な図書館職員の仕事をカバーするということで図書館活動への貢献となるが、図書館職員に対するよい刺激となっている。ボランティアにとっては、この図書館での活動を通じて、社会的な貢献となるとともに、自身の生涯学習につながるものとなり得る。つまり大学図書館は社会人に向けて生涯学習の場を提供しているという側面をもつことにもなる。地域社会への貢献、生涯学習時代への対応も、大学図書館の大きな課題である。そうではあるが、附属図書館は、第一義的には大学の固有の任務である教育研究の遂行のためにあるのであり、その図書資料を公共図書館並に利用拡大する要望には直ちに答えることは難しい。このようななかで、このボランティアについては利用における便宜が付帯するものであり、地域の人々の主体性による図書館活動を通じての図書館開放という注目すべきことがらでもあるといえる。

図書館の公開に関しては、久しく中断されていた「池田家文庫等貴重資料展」を新館開館を機に、再開できたことを特筆したい。

図書館の運営は図書館運営委員会において基本方針を決定し、資料選択などの具体的なことがらはその下にある各種の小委員会などにおいて決定し、図書館事務方によって執行される。この2年間は、初年度早々に、その前の期から引き継いだ5カ年計画の再修正、本年度は現行の3カ年計画終了後の計画の実質的策定という課題を抱えた期間であった。それは、教官研究費となるものからの措置額の増大という内容のものであり、きわめて困難な問題である。運営委員会のもとに設置した小委員会は度々の会合をもったが、各学部において異論の多いであろうこの問題について、慎重・反対の意見表明をふくめて率直な論議が熱心に行なわれた。また、本年度は文部省の電子図書館化事業に対応し、独自の電子図書館構想を策定するために設置した図書館運営委員会の下に構想委員会は、運営委員外の委員も加わり検討が行なわれた。これらの関係委員の各位に深く感謝申しあげたい。

これらの新しい問題の検討のためには、綿密な調査、資料収集にもとづく適切な資料の作成が必要である。橋本健一事務部長の指揮のもと図書館職員の各位によって周到に行なわれた。それは、図書資料整備計画、電子図書館構想に限らずに、図書館利用教育授業、ボランティア制度導入などのこの期に実施した新しい試みに及んでいる。日々の活動にも図書館職員の意欲的な取り組みがあった。その労苦に感謝の意を表したい。

総じて、この2カ年は岡山大学附属図書館の歴史において、新しい試みが多く、活発に活動した期であったといえる。これらの新しい試み、取り組みは、教育・研究の拠点大学としての岡山大学のあるべき像についての図書館サイドからの構想にもとづくものである。

(かんだつ・はるき 附属図書館長)



# 情報リテラシー教育に対する図書館協力

中 島 茂 樹

岡山大学では、平成10年度後期一般科目授業として「学術情報の検索と活用—図書館を活用する—」を開講しました。授業は、担当教官に図書館が協力して今回初めて行うもので、演習では、最新の学術情報の検索方法について、図書館員がパソコンを操作してアクセス方法を実演した後、学生が実際に操作する等により、講義内容の充実と習得をはかりました。なお、この講義は平成11年度も引き続き開講されます。

## ●授業の概要

高度情報化社会の学習においては、さまざまな情報資源を活用しながらレポート等をまとめることは必須になっている。そこで、この授業においては、情報の読み方や学術情報等の検索を通じて情報源の調査、情報収集の手法とレポートのまとめ方について学ぶ。図書館情報検索の演習により、多様化した情報ソースへのアクセス法の習得を図る。

## ●授業カリキュラム

授業期日：後期 月曜日 第1限目（AM8：40—10：10）

対象学生：全学部（人数：50人）

担当教官：神立春樹館長、田口雅弘、源河朝典、國米充之

授業協力：附属図書館

教 室：総合情報処理センター第4実習室ほか

単 位 数：2単位

回	月日	標 題	区 分	内 容	担 当
1	10. 5	総論	講義	情報化社会における学術情報と大学図書館の役割	神立
2	12	情報処理概論	〃	情報ネットワークとマルチメディア	國米
3	19	インターネット・ 情報検索	演習	情報の発信（E-mailの使い方） インターネット情報検索演習	國米
4	26	文献学概論	講義	本の読み方	源河
5	11. 9	新聞を読む	講義	新聞の読み方と記事の利用の仕方	源河
6	16	情報を探す	講義	情報検索と資料の配置	神立
7	30	学術情報検索	演習	新聞・雑誌・図書情報検索	田口
8	12. 7	〃	〃	〃	田口
9	14	〃	〃	〃	田口
10	21	〃	〃	テーマ設定による情報検索その1	田口
11	1. 11	〃	〃	テーマ設定による情報検索その2	田口
12	18	レポートの書き方	講義	レポートの構成、論理の展開、	田口
13	25	〃	〃	引用方法等	田口
14	2. 1	まとめ		学術情報全般について	神立

（なかしま・しげき 附属図書館情報サービス課図書館専門員）



# ボランティアの活動について

## ～導入後3ヶ月を経過して～

木村正昭  
橋本健一

### はじめに

平成10年10月1日(木)の7名を皮切りに、23名のボランティアの方々による図書館業務への支援活動が開始されて、早3ヶ月が経過した。ここにその活動の有様等を記しておく。

### 受入れまでの経緯

平成9年9月、附属図書館(中央館)は、図書館利用者サービスの維持、向上を目指して、地域における生涯学習、社会活動の一環として図書館でのボランティア活動を希望する人の受け入れについて検討を開始した。その後、関係資料の収集とボランティア活動を受け入れている先行大学へ職員が出張して実状把握などを行い、平成10年後期から受け入れることになった。平成10年7月に「岡山大学附属図書館ボランティア受入実施要項」、「図書館ボランティア募集要項」を制定し、募集ポスターの配付掲示、報道機関への広報を行って7月15日から1ヶ月間募集を行った。応募のあった方を8月下旬に面接し、最終的に23名の方を受け入れることになった。

### 活動開始前の研修会について

10月からの活動の開始に備えて、9月9日(水)・10日(木)の両日の10:00～12:00、新館1階AV演習室でボランティアの研修会を開催した。

館長・事務部長の挨拶の後、第1日目が情報管理課、第2日目に情報サービス課の業務を中心に研修を行っていただいた。その主な内容は、中央館8系の係長による業務の紹介、館内案内、OPACの使用法の研修等であった。

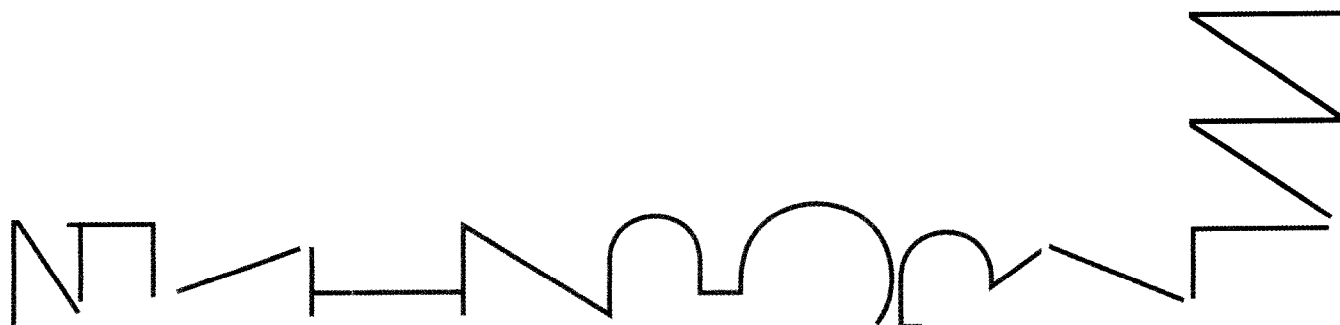
短時間で盛りだくさんの内容であったが、応募者の多くが大学図書館を初めて訪れるという状況であったので、大学図書館での活動がどのようなものであるかを理解していただく上で大きな援助となったと思われる。

一方、それに先だって、図書館側でも、ボランティア導入が初の試みであることに鑑み、ボランティア受入の心構えを確立するために、岡山市社会福祉協議会より講師2名を招いて、9月7日(月)の13:30～15:30、研修会を開催した。ここでは、ボランティア活動の本質、身障者等への援助の基本、車椅子介助の実習等を学ぶことが出来、有意義であった。

### ボランティアの活動時間・年齢構成等について

ボランティアとして、週に1回以上、1日3時間以上の活動ができる方ということで募集した。

週に3回の方が2名、週に2回の方が4名、週に1回の方が17名で、1日3時間の方が



ほとんどで、4時間の方が3名、5時間の方が2名である。

男性が7名、女性が16名で、男性の内6名は60歳以上（1名は30歳代）、女性の年齢構成は、20代が7名、40代が3名、50代が4名、60代が2名である。

ちなみに募集の際に提出していただいた各人の活動の希望表の第1位のをを列挙すれば、順不同で「図書整理」、「資料検索の代行」、「配架資料整理」、「パソコンメンテナンス」、「端末操作案内」、「郷土資料整理」、「展示会協力」、「資料修理」、「館内案内窓口業務」、「資料配置案内」、「外国語による案内」、「何でも可」ということになる。

「何でも可」を記入した方の多くは、司書コース受講中か司書資格保持の20代女性で、目録作成を含んだ司書業務全般を希望し、「郷土資料関係」を記入した方の中の1名が、池田家文庫関係の活動に携えることを希望していた。

### 3ヶ月間の参加延べ人数・活動時間等について

10月～12月3か月間の土・日曜日及び祝日を除く、59日間に、延べ284人（1日平均4.8人）、延べ948時間（1日平均16.07時間）の支援をいただいた。

### 10月の活動について

10月第1週に「岡山大学附属ボランティア許可証」（入館ゲート用と館外貸出券を兼ねる）を、館長より各自に授与し、「図書配架整理」（資料運用係）、「資料検索実習」（参考調査係）、「雑誌配架整理」（雑誌係）のガイダンスを改めて全員に行った。また、「パソコン操作等指導」（電子情報係）、「郷土資料ガイダンス」（参考調査係）、「資料受入指導」（資料受入係）、「目録業務指導」（目録情報係）を、希望表に記載のあった方に、入門的に行った。

2～4週は、業務への習熟度を確認しながら、資料運用係、雑誌係、参考調査係、電子情報係、資料受入係、目録情報係で係長等の指導により活動をしていただいた。

なお、9名の方には、10月23日（金）～11月1日（日）開催の「池田家文庫等貴重資料展岡山藩と海の道」の受付を、土曜・日曜を除いて協力いただいた。

### 11月の活動について

各係での活動の内容は次のとおり。

（資料運用係）

担当の書架を決めての配架直し。（1人を除き全員）

（雑誌係）

リストと雑誌の照合（所在の確認）及び雑誌の配架・配架直し。（1人を除き全員）

（電子情報係）

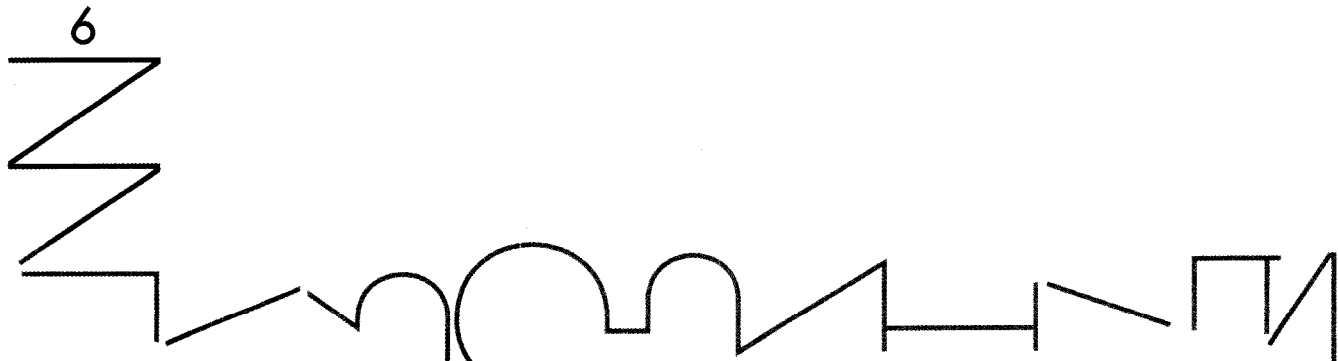
ホームページ作成の手伝い、パソコンのセットアップ、インストール、及びFDのフォーマット化。（3人）

（資料受入係）

製本雑誌の装備、図書の装備。（4人）

（目録情報係）

書庫内図書の遡及入力。（所蔵データを入力すればよいもののみ）（1人）



(参考調査係)

池田家文庫マイクロ版史料目録の補足作業 (1人)

### 12月の活動について

活動していただいた係、活動内容共11月と大差はない(人数に若干の相違がある)が、電子情報係では、池田家文庫絵図類データベースの絵図の確認、パソコンのセットアップ、電子ジャーナルのチェック等を行っていただいている。

### ボランティアの方々との意見交換会及び懇親会について

意見交換会が、12月21日(月)16:00~17:00ボランティア13名と館長以下6名の図書館職員の参加の下、新館1階のAV演習室で行われた。図書館人では思いつかないような貴重な意見を多々いただき、非常に意義ある交換会であった。

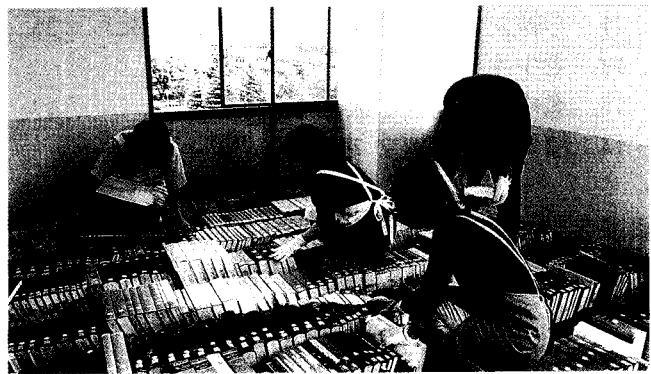
会の終了後、本館3階に移動して、ボランティア13名と館長以下13名の図書館員との懇親会を行った。できれば、ボランティア全員の参加をと思ったが、日程の調整がつかなかった。

### 終わりに

当館でのボランティア活動はその緒についたばかりである。館長等の指導を受けながら、担当係との連絡を密にし、長く楽しくボランティアの方々活動していただくために、努力したいと思っている。

(きむら・まさあき 附属図書館情報管理課図書館専門員)

(はしもと・けんいち 附属図書館事務部長)



# 池田家文庫等貴重資料展「岡山藩と海の道」について

河野 建二

## はじめに

平成10年10月23日(金)から11月1日(日)までの10日間、新館5階特殊資料展示室において、標記の資料展を開催しました。

その概要と入場者に関するデータ等をまとめて報告します。

## 展示会の趣旨

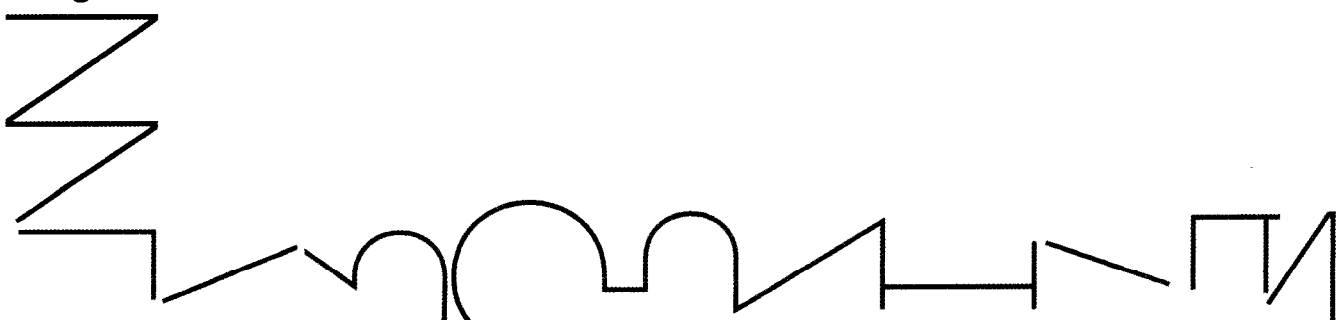
瀬戸内海は古代以来船舶の通行が盛んで、多くの人や物資が行き交う海の道でありました。岡山地域はこの瀬戸内海のほぼ中程にあたり、地形や潮流から多くの良港に恵まれていました。江戸時代になると瀬戸内海の海上交通はますます発達し、政治的にも経済的にもその重要度が高まりました。備前国を領有した岡山藩もこの海上交通に深くかかわっており、池田家文庫にはそれに関する絵図・文書なども沢山あります。今回は、航路や湊を中心にその一部を展示しました。

## 展示品一覧

1. 備前国絵図 明和2年(1765)
2. 備前国海岸絵図
3. 大阪より長崎に至る海岸の図(1)
4. 備前備中道筋并灘道船路帳  
天保4年(1647)
5. 本邦海岸線各地里程記入地図
6. 岡山川筋絵図
7. 御舟入絵図
8. 御船手御留帳 12冊  
延宝元年(1673)~貞享2年(1684)
9. 白鷗丸御乗初一件 享保11年(1726)
10. 白鷗丸御作事出来御船風御召初規式帳  
享保11年(1726)
11. 八幡丸御作事留帳 元文3年(1738)
12. 老中連署奉書 寛永21年(1644)
13. 老中連署奉書 天保2年(1645)
14. 浦々高札 寛文7年(1667)
15. 邑久郡牛窓村見取絵図
16. 牛窓沖見渡絵図
17. 牛窓舟懸之石垣堤新敷絵図  
元禄8年(1695)
18. 日比湊絵図 文化8年(1811)
19. 大多府湊絵図
20. 下津井沖見渡絵図
21. 下津井湊掘浚見取絵図
22. 下津井海岸見取絵図
23. 下津井御台場御築建図面并口上書
24. 邑久郡牛窓町筋絵図  
[正徳元年(1711)]
25. 下津井御船繫之絵図
26. 朝鮮通信使并船着場絵図  
延享5年(1748)
27. 海瀬舟行 5巻

## 講演会

開催期間中の10月31日(土)午後2時から4時までの2時間、「瀬戸内の交流」と題する講演会が新館5階大会議室で開かれました。講師は竹林栄一氏(岡山県総合文化センター総括学芸員)でした。入場者数68名にもなり、講演後の質疑応答も活発に行われました。





## 来場者統計

## ①年 齢

24歳以下 44.9%、25～34歳 8.0%、35～44歳 5.9%、  
45～54歳 12.5%、55～64歳 10.5%、65歳以上 18.2%

## ②性 別

男性 59.5%、女性 40.5%

## ③所 属

校内学生 34.5%、学内教職員 21.8%、学外学生 8.9%  
学外教員 2.3%、学外その他 32.5%

## ④住 所

市内 59.6%、市外（県内） 27.2%、その他 13.2%

## ⑤情 報 源

新聞 25.0%、ポスター 37.0%、その他 38.0%

## ⑥来場理由

内容に興味 55.9%、図書館に興味 7.7%、時間があつた 19.4%、  
近いから 17.0%

## その他の意見等（上位5位）

## ○要望等について

- ・資料の文字が小さいので読めない 19件
- ・解説内容をもっと詳しく 17件
- ・解説の現代語訳が必要 12件
- ・説明者が必要 9件
- ・広報にもっと努力を 9件

## ○よかった事柄について

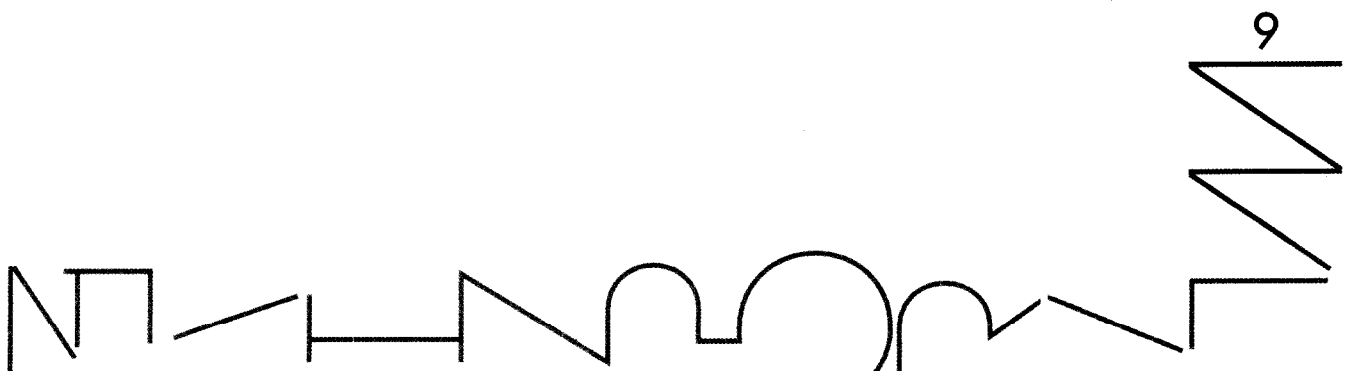
- ・貴重な史料を見ることができて感謝 36件
- ・よかったので、今後度々開催してほしい 28件
- ・解説者がいてよかった 24件
- ・「海瀬舟行」がよかった 17件
- ・保存状態がよいのに感激 14件

## おわりに

入場者数は958名でした。昨年が692名でしたので、約1.4倍の伸びになります。アンケートでは、貴重な御意見が沢山あります。今後の展示会計画の参考にさせていただきます。

最後に、この展示会の準備、受付等におきまして図書館ボランティアの方々に御協力いただきました。お礼申し上げます。

（このの・けんじ 附属図書館情報サービス課長）



# 学術外国雑誌整備に関するアンケート実施報告

## 雑誌係・電子情報係

附属図書館運営委員会では、限られた経費の中で効率的に共同利用の学術情報整備を行うため、17名の委員からなる「図書館資料整備検討会」を設置して、「21世紀図書館資料整備第1次5カ年計画」を立案すべく種々の検討を行ってきました。

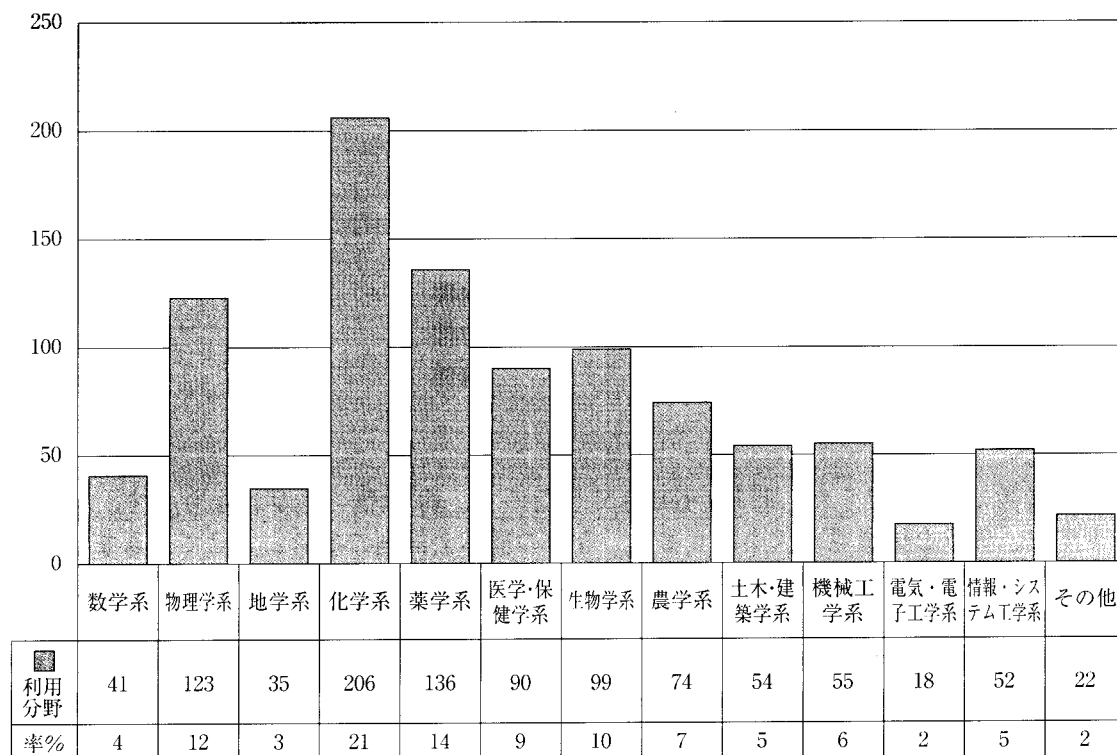
その計画立案の基礎資料とするために、平成10年10月20日から11月10日まで、「津島地区共同利用自然科学系外国雑誌の整備に関するアンケート」と題して、津島地区の自然科学系で助手以上の常勤教員全員を対象としてアンケートを行いました。

アンケートは初の試みとして、附属図書館のホームページ上で行い、研究室の端末から5点の設問に順次回答をいただくという方法を取りました。対象教員455名中226名の方から回答をいただきました。

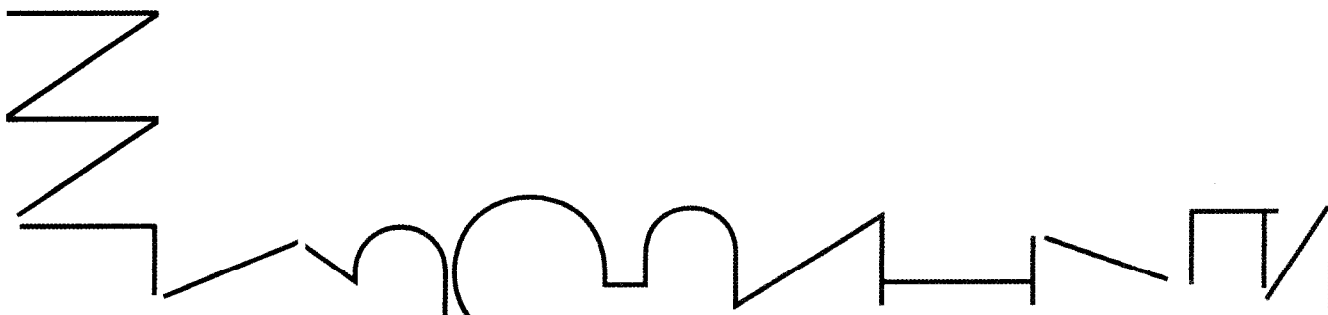
アンケートの際、回答者端末のブラウザと不整合があり、大変ご迷惑をおかけしました。たくさんの方のご協力をご感謝申し上げます。

下図は、教育研究活動のためにどの分野の雑誌を利用しているかの回答をグラフ化したものです。アンケート結果は、附属図書館ホームページをご覧ください（学内のみ）。

### 利用分野



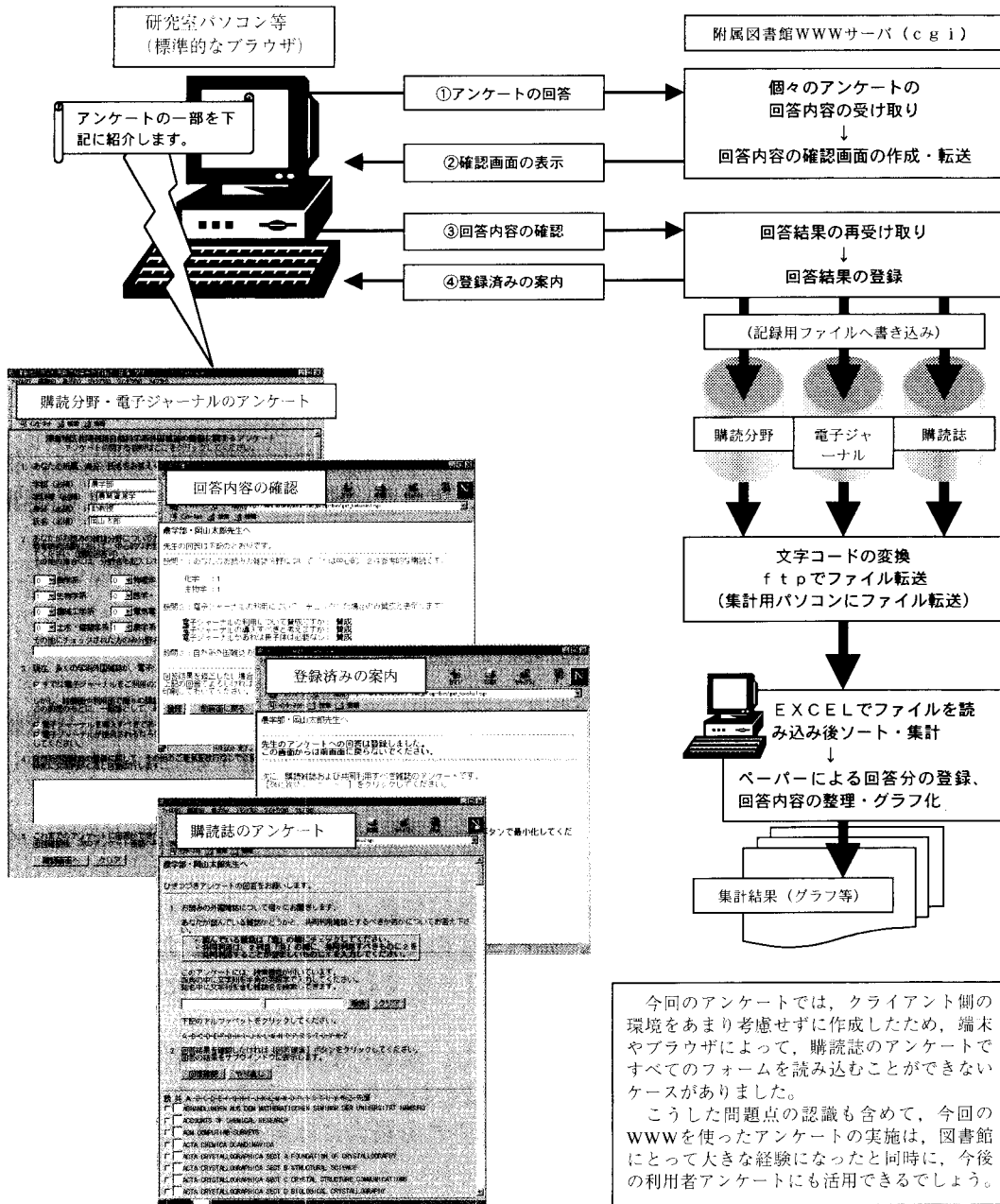
(注) 利用分野の数値は、中心的に読んでいるものを2点、参考的に読んでいるものを1点としての点数である（複数回答）。



今回のアンケートは、設問項目が多いので2つのページに分けました。

- I. 講読分野、電子ジャーナルへの意見に関するアンケートのページ
- II. 講読誌調査に関するアンケートのページ

個々のアンケートは、「アンケートの表示→①回答→②回答結果表示→③回答内容の確認→④登録済みの案内」のフローで処理しました。アンケートの結果は、設問単位に個々のファイルにCSV形式で書き込み・保存するようにしました。個々のファイルに書き込まれた回答結果はコード変換後に、パソコンにftpでファイル転送し、EXCELに読み込んでソート・集計する手順で行いました（以下、下図参照）。





# マスカット

## 図書選書システムの導入

図書購入における選書・購入依頼にかかる負担を軽減するため、図書選書・購入依頼システムを導入する予定です。書店の選書システムを利用したもので、各教室の端末から選書・発注依頼のデータが図書館へ直接送り込まれ、図書館から各書店に発注するので時間的ロスも少なくなると思われ、4月を目標に準備を進めています。

## LDコーナーの充実

新着LDが多数入りました。様々なジャンルのタイトルがあります。詳しくはLDコーナーの各ブースに作品リストを備え付けてありますので、ご覧になってください。

LD・Videoブースをご利用の方はまず本館1Fのカウンターにおいでください。

## 相互利用系の現状

### 1) 現 状

平成9年度の相互協力に基づく複写依頼（以下、中央館のみ7,134件）、複写受付（3,274件）、現物借用の依頼（654件）、現物借用の受付（308件）となっています。5年前に比べ合計件数では1.5倍、複写依頼のみでは1.9倍に増加しています。今後も購入雑誌が減少していけばこの数字は増加するものと思われまます。

### 2) 問 題 点

学術情報センターのILLシステムが平成4年に始まり、国内参加機関数百へ即時に、依頼ができるようになったこと、資料購入費の減少、資料費の高騰により、大学にて必要雑誌を購入できなくなり、それを補完するため他機関への依頼が増加しています。

依頼増加に伴う増員もないので、依頼に対して、迅速に対応出来にくくなっています。

### 3) 改善項目

図書館のホームページから依頼者が相互利用係へ依頼を行えるようにする。

### 4) お 願 い

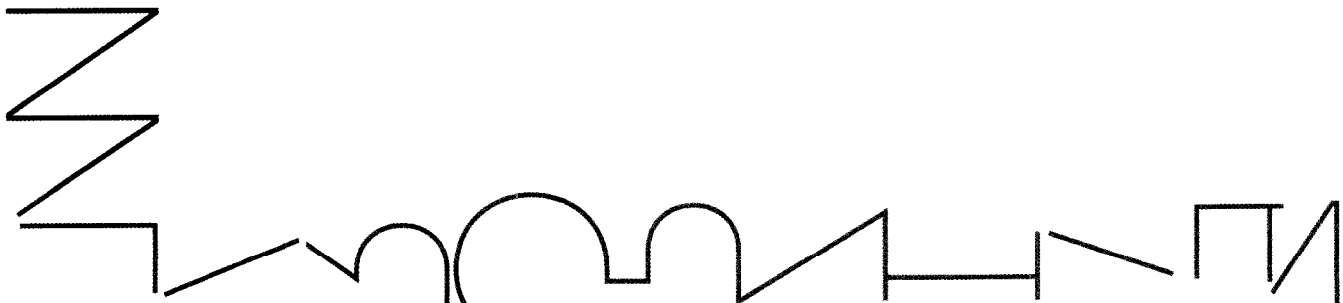
依頼をされる場合、学内（中央館なら津島地区）に所蔵がある場合には他大学には依頼しません。同一地区内においては、利用者が各所蔵場所に行って利用することをお願いしております。

依頼雑誌名、巻号、頁、年、雑誌論文名が不明確で依頼出来ない事がありますので、申込書には確実に記入してください。

国内に所蔵がないか、入手が困難な場合には国外に依頼する事になりますが、大変手間のかかる作業です。書誌・所蔵の調査から始めますので、時間がかかります。

英国図書館（BL）に依頼する場合にはネットワークで行いますので、比較的速く到着します。校費のみの取扱です。

その他の国は、郵送にて依頼書を送ります。また、現物の到着までに、料金の前払いが必要になります（特に、アメリカ）。支払方法も多岐にわたります。到着までに2-3ヶ月、長ければ半年もかかる場合がありますので、依頼をされる場合には余裕をもって依頼してください。



## 教官からの著書寄贈リスト（平成10年4月～12月）

次の方々から著書を御寄贈いただきました。ありがとうございました。

平成11年1月14日開催の附属図書館運営委員会において、今後、本学教官（名誉教授を含む）の図書及び報告書等、著作物を図書館は、寄贈により積極的に収集して学生等の利用に広く供することになりました。ご寄贈いただきました著作物は、OPACで検索できるほか、図書館報、ホームページに掲載して紹介します。ご理解とご協力をお願いします。

青山英康 [医]

今日の疫学——医学書院, 1996 (498.6/KO 鹿田分館・1階閲覧室)

青山英康 (訳) [医]

International Symposium on Suggestions for Primary Care Physicians in Japan——日本プライマリ・ケア学会 (498/IN 鹿田分館・1階閲覧室)

川田智恵子 (共編) [医短]

健康観の転換：新しい健康理論の展開——東京大学出版会, 1995 (共編) (498/KE 鹿田分館・1階閲覧室)

川田智恵子 (共編) [医短]

健康教育・保健行動（保健社会学Ⅱ）——有信堂高文社, 1993 (498/HO 鹿田分館・1階閲覧室)

神立春樹 [経]

大学の授業：岡山大学における実践の記録——大学教育出版, 1998 (377.1/K 中央館・新館3階)

木村和義 [資生研]

作物にとって雨とは何か 濡れの生態学——農文協, 1997 (資生研分館・史料館3階)

黒川勝利 [経]

アメリカ労働運動と日本人移民：シアトルにおける排斥と連帯——大学教育出版, 1998 (366.6/K 中央館・新館3階)

佐藤二郎 [名誉教授 医]

佐藤二郎教授退官記念研究業績集——岡山大学医学部附属癌源研究施設病理部門, 1990 (491.6/S 中央館・書庫4層)

鈴木幸雄 (分担執筆) [名誉教授 資生研]

Methods in enzymology 279——Academic Press, 1997 (資生研分館・史料館2階)

Methods in enzymology 280——Academic Press, 1997 (資生研分館・史料館2階)

武田和義 [資生研]

植物遺伝育種学——裳華房, 1995 (資生研分館・史料館3階)

野田和彦 (編) [資生研]

Seventh International Symposium on Pre-harvest Sprouting in Cereals 1995——Center for Academic Societies Japan, 1996 (資生研分館・史料館3階)

(敬称略 五十音順)



## 会議

### ◆学外

- 10.10.13～10.14 平成10年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議（於にぎたつ会館）
  - ・電子図書館構築のための具体的課題について、その他
- 10.28～10.30 第39回中国四国地区大学図書館研究集会（於松江東急イン及び島根大学附属図書館）
  - ・今、大学図書館に求められるもの
- 11.12 平成10年度中国四国地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（於岡山大学附属図書館）
  - ・電子的一次情報購入におけるコンソーシアム形式について

- 11.25～11.26 第11回国立大学図書館協議会シンポジウム（於広島大学附属図書館）
  - ・大学図書館における事務改善・合理化の進め方について
  - ・国際ILLについて
- 12.17～12.18 NACSIS-IR 地域講習会担当者連絡会（於学術情報センター）
  - ・平成10年度講習会実施報告、その他
- 11.1.21 平成10年度国立大学附属図書館事務部長会議（於三重大学講堂）
  - ・大学図書館の学習図書館機能の充実・強化方策について、その他

### ◆学内

- 10.9.29 平成10年度第4回図書館資料整備検討会
- 10.8 平成10年度第2回電子図書館構想検討委員会
- 10.28 平成10年度第5回図書館資料整備検討会

- 11.27 平成10年度第6回図書館資料整備検討会
- 12.11 平成10年度第3回電子図書館構想検討委員会
- 12.15 平成10年度第7回図書館資料整備検討会
- 11.1.14 平成10年度第3回図書館運営委員会

## 研修

- ・平成10年度岡山大学一般職員研修
  - 参加者 遠矢厚志、本間静一郎
  - (10.10.6～10.9)
- ・平成10年度大学図書館職員講習会
  - 参加者 森谷めぐみ、遠矢厚志、坂谷陽子
  - (10.11.9～11.12)

- ・新IRシステム及び新CAT/ILLシステム説明会
  - 参加者 本間静一郎 (10.11.10)
- ・平成10年度中国四国地区国立学校等係長研修
  - 参加者 古中秀子 (10.11.24～11.27)

## 編集委員会から

図書館の前にある二本の楷の木は、冬に入っても緑のまま、このまま春になるのではないかと心配していた。ところが年末が近づくと一斉に色付き、またたく間に地面を赤が覆った。今は見事に枝だけになっている。

こんな心配するよりも、もっと大きなテーマがあった、「これから国立大学はどうなるのでしょうか」「大学図書館は・・・」。

---

岡山大学附属図書館報「楷」 No. 28 平成11年2月25日

発行人 橋本健一 編集 広報委員会 表紙デザイン・レイアウト 清水國夫

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話086-252-1111